

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 21 年 2 月 26 日 (2009.2.26)

【公表番号】特表 2008-526935 (P2008-526935A)
 【公表日】平成 20 年 7 月 24 日 (2008.7.24)
 【年通号数】公開・登録公報 2008-029
 【出願番号】特願 2007-550830 (P2007-550830)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 17/02

【手続補正書】
 【提出日】平成 21 年 1 月 6 日 (2009.1.6)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

瘢痕化が軽減された創傷治癒の加速を促進するための薬物の製造における、式： $X_1 - X_2 - X_3 - \text{Thr} - X_4 - \text{Lys} - X_5 - \text{Arg} - X_6$ （配列番号 1）
 （式中、 X_1 は Ala または Gly であり、
 X_2 は Tyr または Phe であり、
 X_3 、 X_4 、および X_5 は、独立して、Met、Ile、Leu、および Val からなる群から選択され、
 X_6 は、Asp、Gln、および Glu からなる群から選択される）のペプチドまたはその誘導体の使用。

【請求項 2】

前記ペプチドが、アミノ酸残基 Ala - Tyr - Met - Thr - Met - Lys - Ile - Arg - Asn（配列番号 2）を含む、請求項 1 に記載の使用。

【請求項 3】

前記薬物が、創傷が形成される部位への投与を目的とする、請求項 1 または請求項 2 に記載の使用。

【請求項 4】

前記薬物が、既存の創傷への投与を目的とする、請求項 1 または請求項 2 に記載の使用。

【請求項 5】

前記薬物が、 $1 \text{ ng} / 100 \mu\text{l} \sim 1 \mu\text{g} / 100 \mu\text{l}$ の濃度のペプチドを含む、請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 6】

前記薬物が局所投与を目的とする、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 7】

前記薬物が局所注射を目的とする、請求項 6 に記載の使用。

【請求項 8】

前記薬物が皮膚創傷への投与を目的とする、請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載の使用。

。

【請求項 9】

前記薬物が外科的創傷への投与を目的とする、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 10】

前記薬物が移植片に関連した創傷、移植片ドナー部位又は移植片レシピエント部位への投与を目的とする、請求項 9 に記載の使用。

【請求項 11】

前記外科的創傷が瘢痕修正又はZ形成術に関連する、請求項 9 に記載の使用。

【請求項 12】

前記瘢痕修正が病学的瘢痕の修正である、請求項 11 に記載の使用。

【請求項 13】

前記薬物が熱傷創への投与を目的とする、請求項 1 ~ 12 のいずれか 1 項に記載の使用。

。

【請求項 14】

前記薬物が慢性創傷への投与を目的とする、請求項 1 ~ 13 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 15】

前記創傷が、顔、首、手又は関節に存在する、請求項 1 ~ 14 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 16】

前記創傷が病的瘢痕を形成するリスクが高い、請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 17】

前記創傷が慢性瘢痕を形成するリスクが高い、請求項 1 ~ 16 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 18】

前記薬物が、一次治癒を目的とした創傷治癒へ使用される、請求項 1 ~ 17 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 19】

前記薬物が、二次治癒を目的とした創傷治癒へ使用される、請求項 1 ~ 17 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 20】

前記薬物が、自然に生じる炎症反応を維持することが望ましい創傷での使用を目的とする、請求項 1 ~ 19 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 21】

前記薬物が腹膜傷創への投与を目的とする、請求項 1 ~ 7、請求項 9 ~ 14、または請求項 16 ~ 20 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 22】

前記ペプチドが環化している、請求項 1 ~ 21 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 23】

前記ペプチドが安定化している、請求項 1 ~ 22 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 24】

前記ペプチドのアミノ末端のアミノ酸残基がアシル化されている、請求項 1 ~ 23 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 25】

前記カルボキシ末端のアミノ酸残基がアミド化されている、請求項 1 ~ 24 のいずれか 1 項に記載の使用。